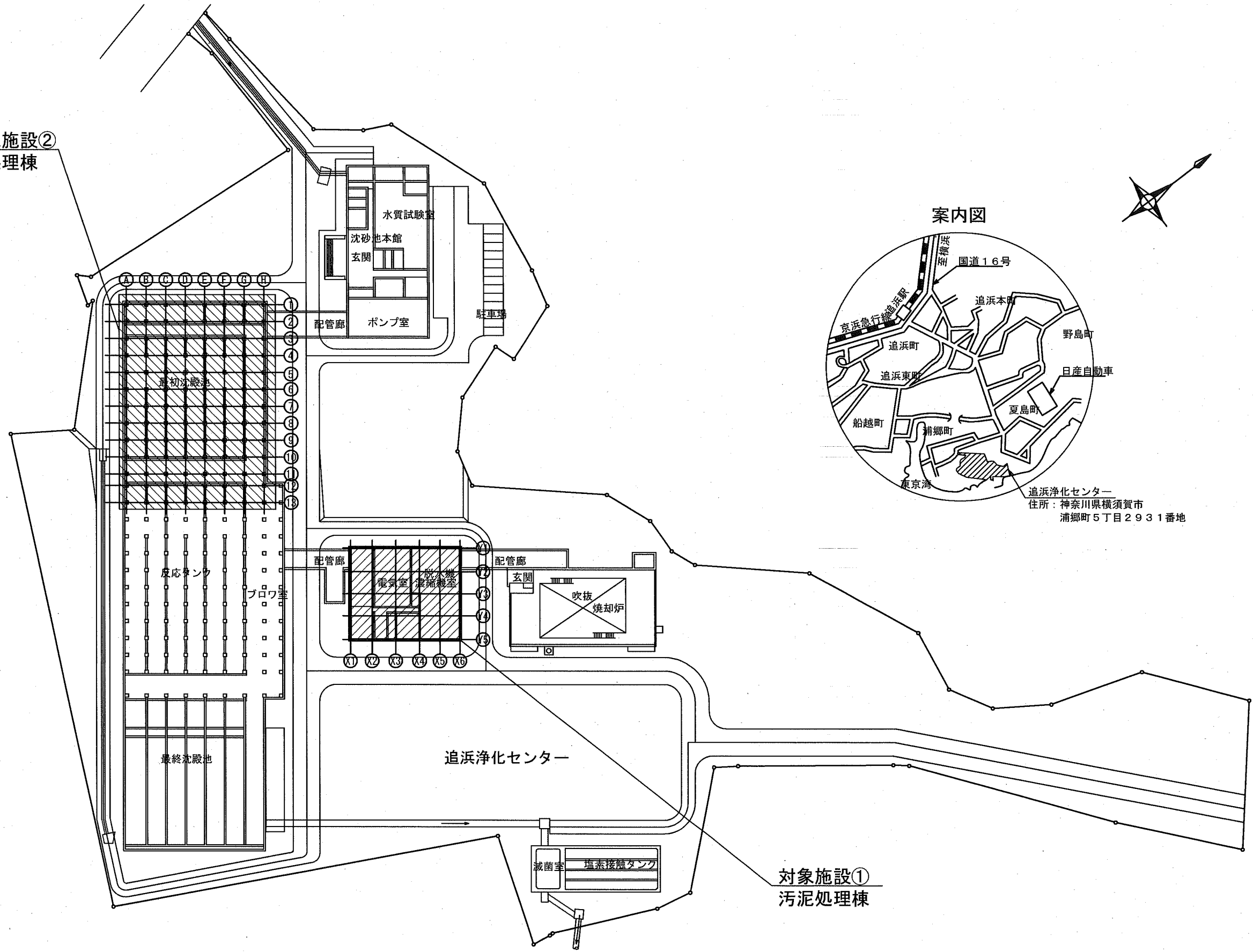


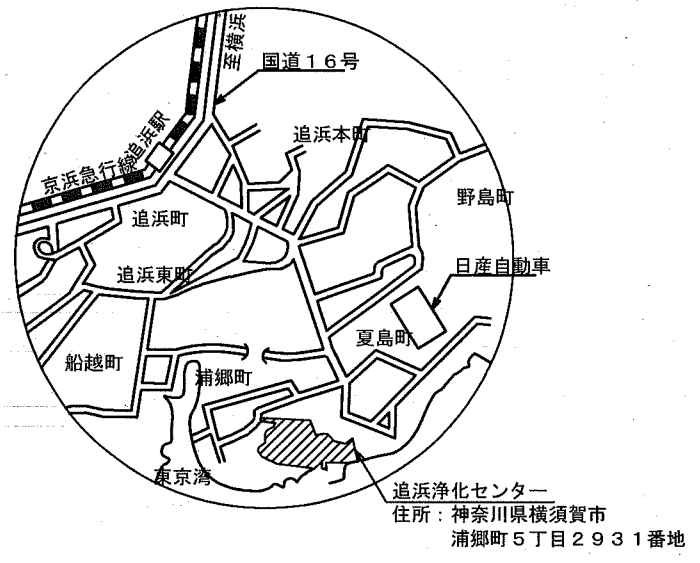
一般平面図

対象施設②  
水処理棟



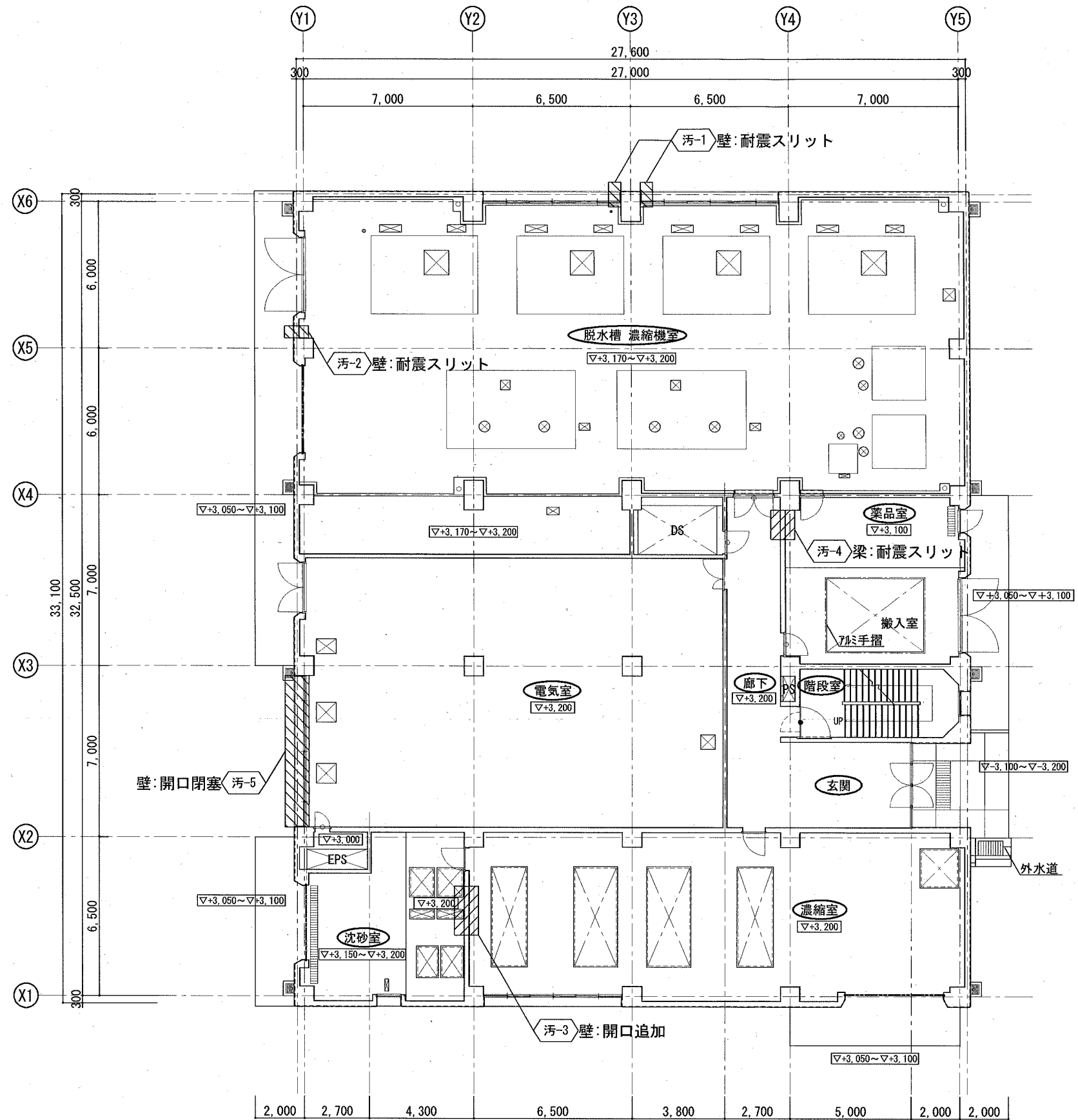
対象施設①  
汚泥処理棟

案内図



横須賀市上下水道局				
工 事 名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築設計			
図 面 名	一般平面図・案内図			
縮 尺	—	図 面 番 号	A-01	
製 作 年 月	令和 2 年 8 月			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

汚泥処理棟 1階 平面図



凡例

	室名
	改修工事範囲
	施設 汚-1 部位番号

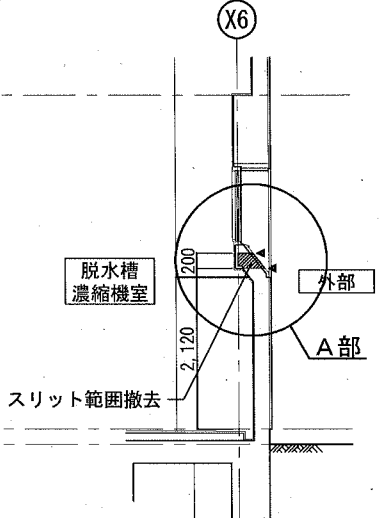
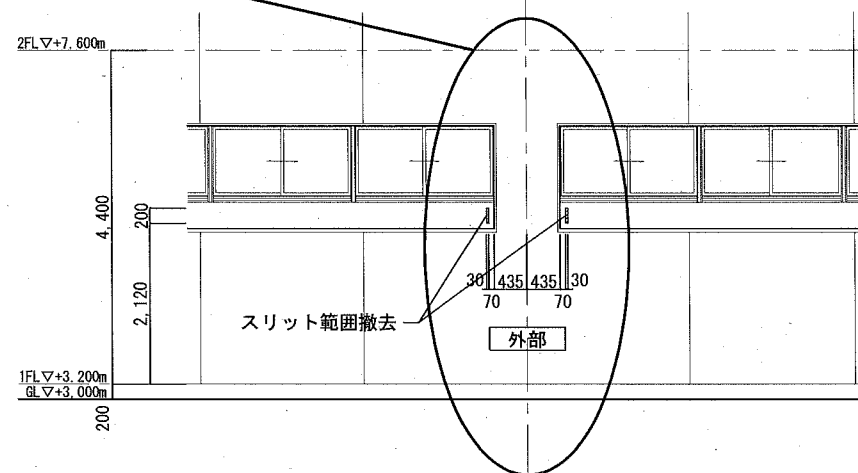
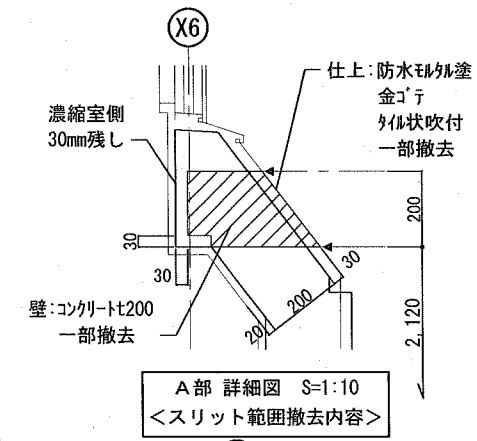
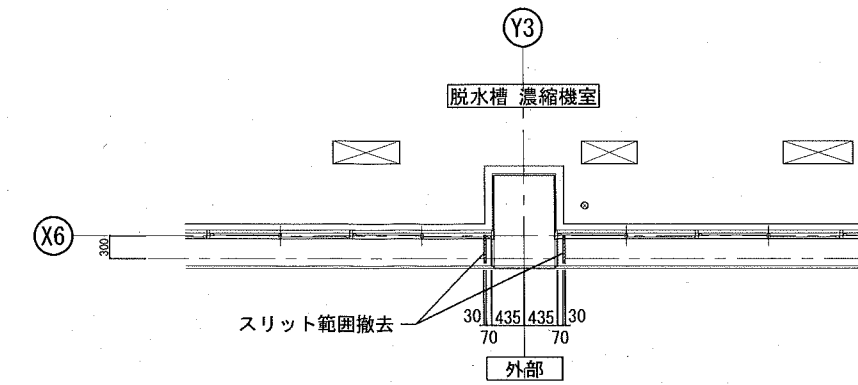
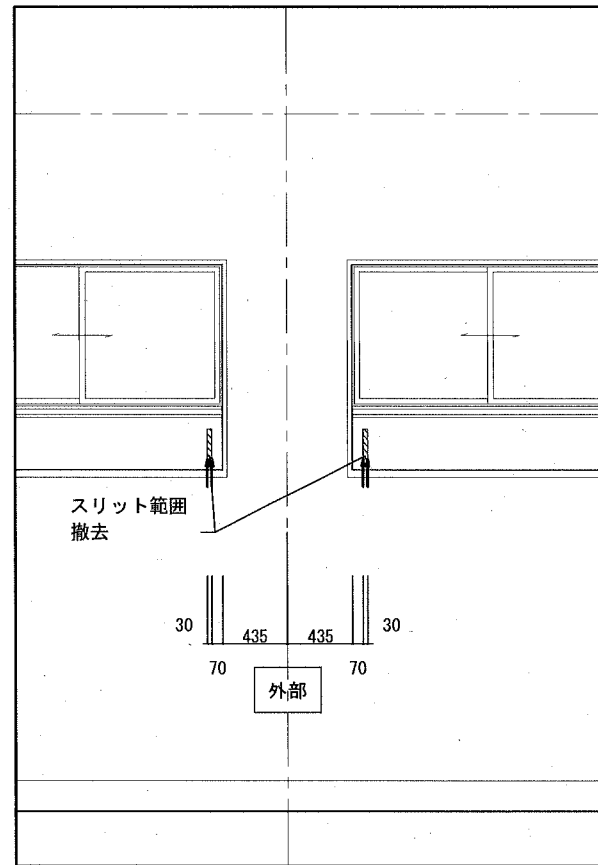
\* 2F改修無し

横須賀市上下水道局			
工 事 名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか 耐震補強建築工事		
図 面 名	平面図 (汚泥処理棟 1F)		
縮 尺	1 : 100	図 番 号	A-02
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者



汚-1 1階 X6通 Y2~Y3/Y3~Y4間 壁：耐震スリット範囲撤去 W30

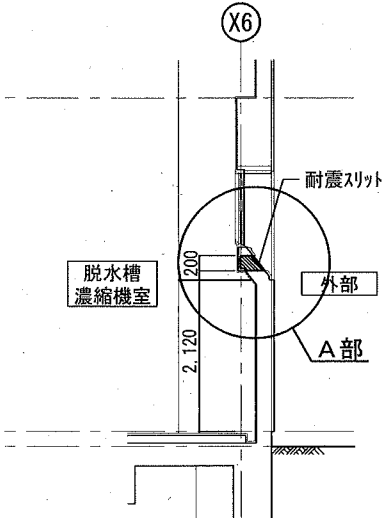
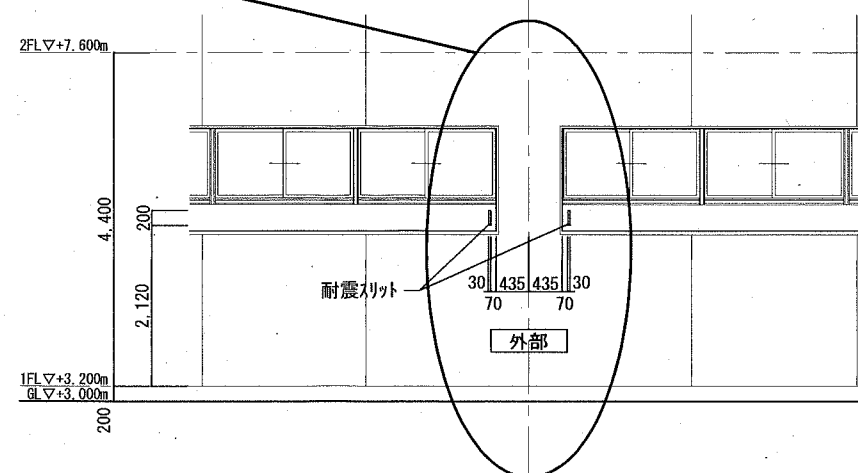
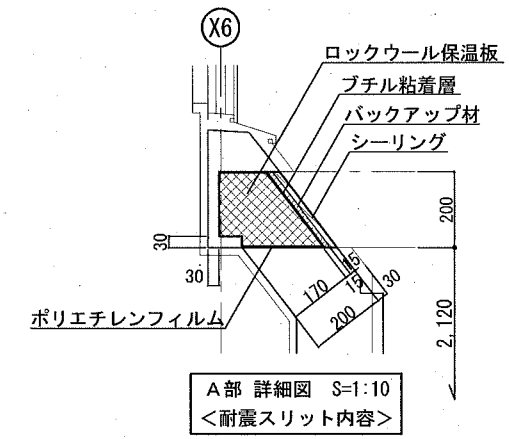
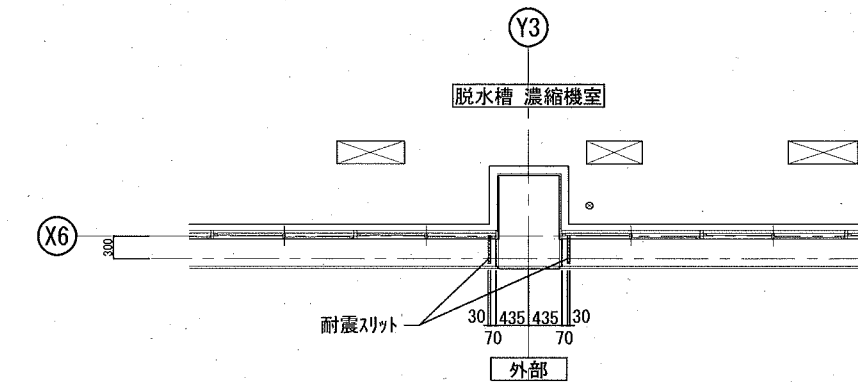
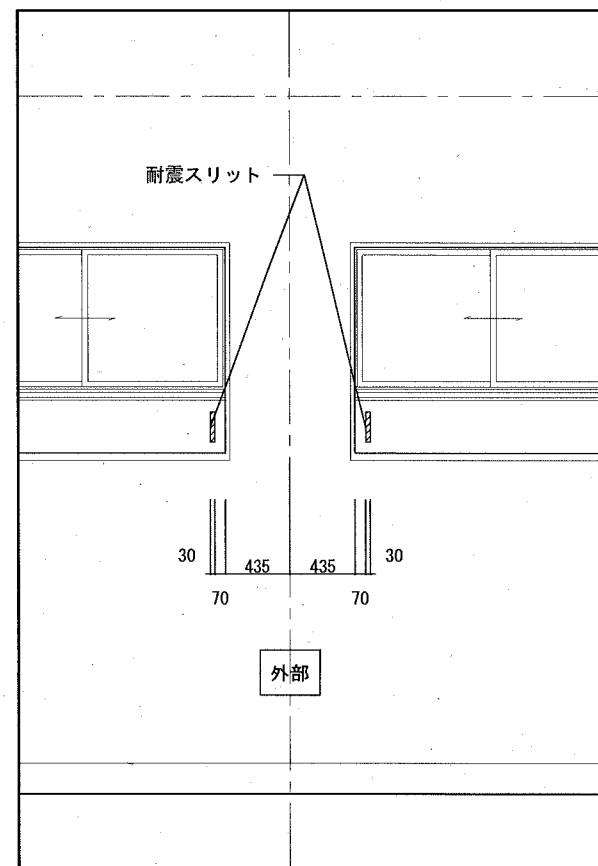
改修前



凡例 ▶ カッター入れ

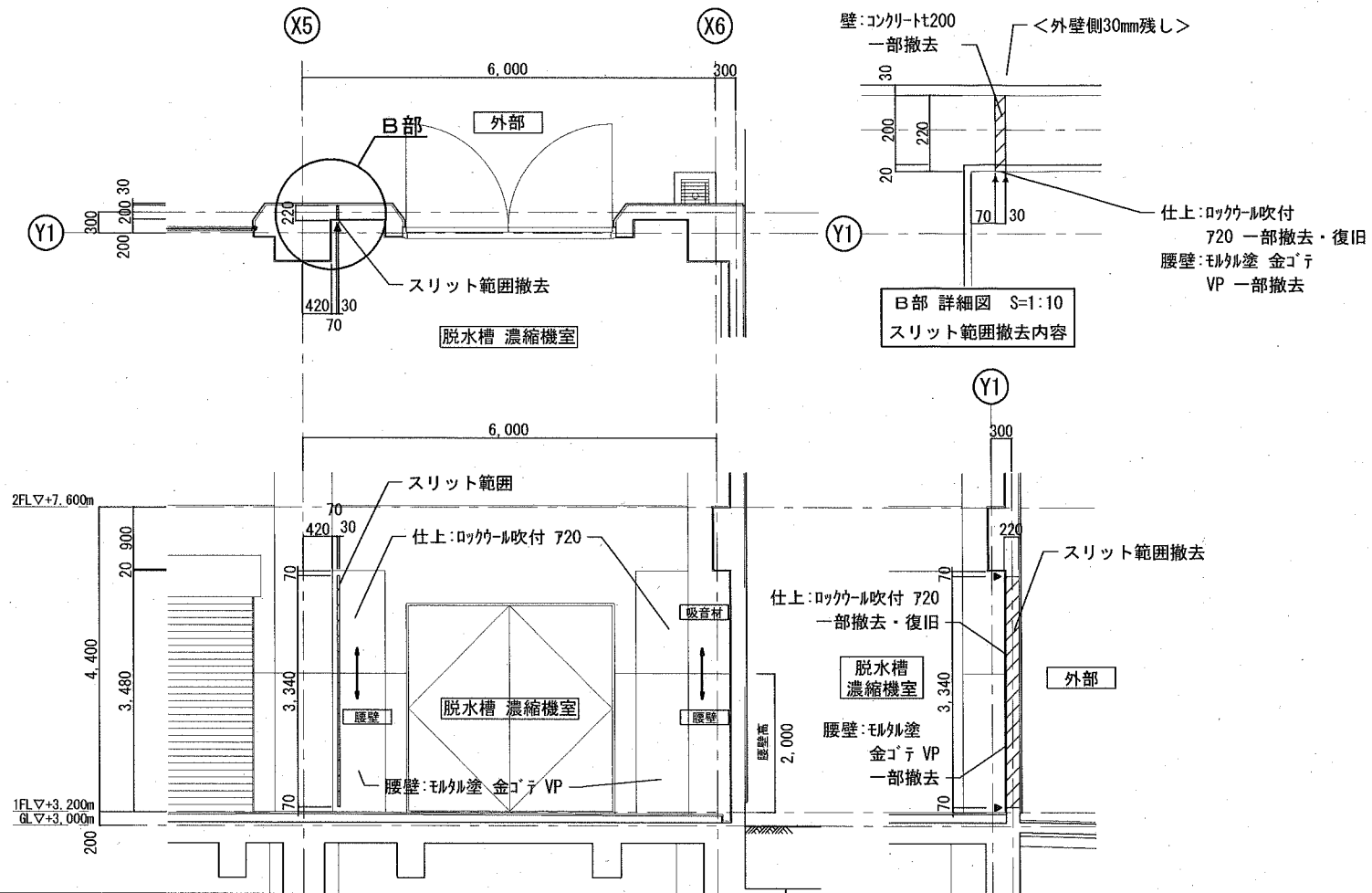
汚-1 1階 X6通 Y2~Y3/Y3~Y4間 壁：耐震スリット新設 W30 L200

改修後



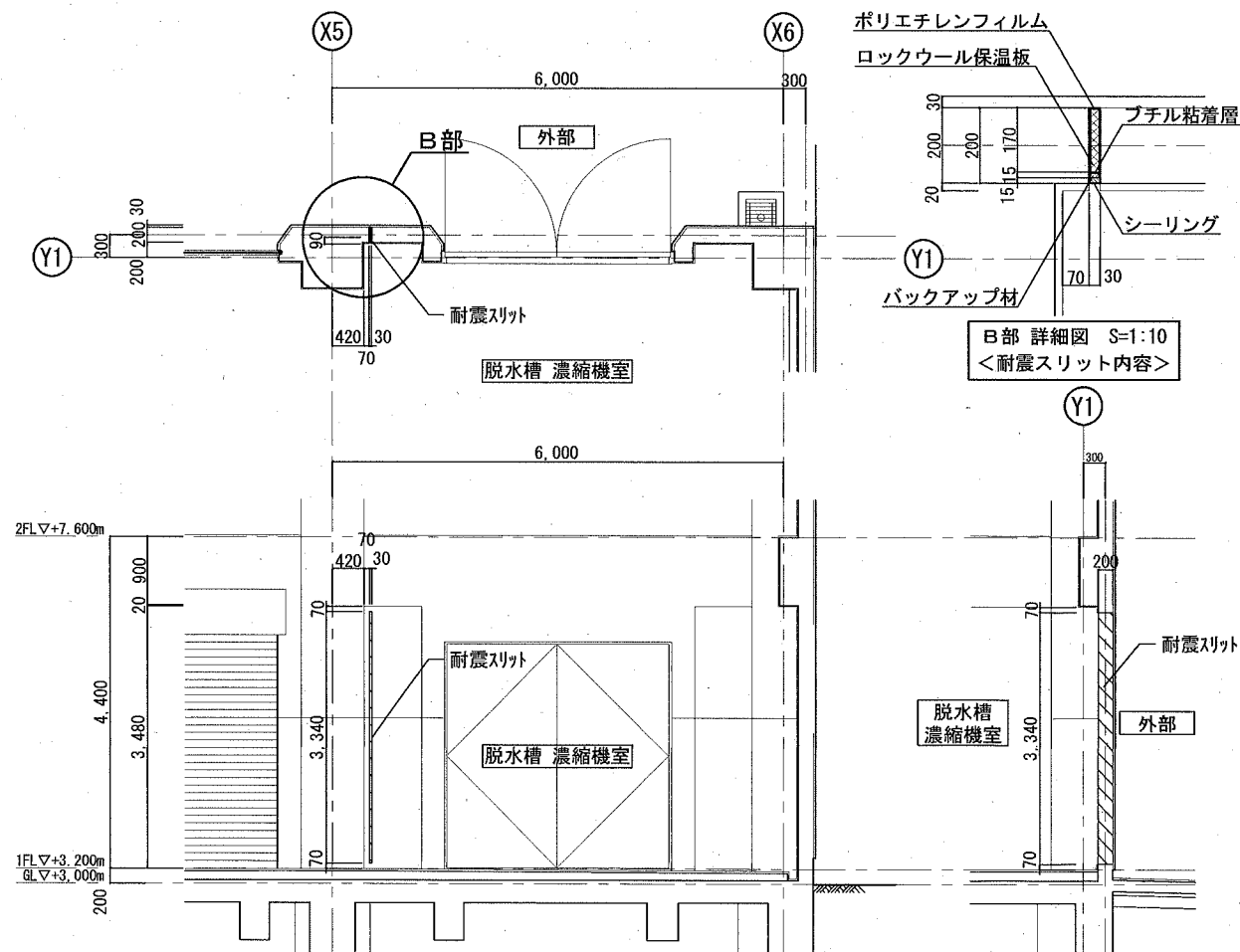
横須賀市上下水道局			
工事名称	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築工事		
図名	改修詳細図1(汚泥処理棟)		
縮尺	1:50	図番	A-04
製年	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者

汚-2 1階 Y1通 X5~X6 壁：耐震スリット範囲撤去 W30



凡例 ▶ カッター入れ

汚-2 1階 Y1通 X5~X6間 壁：耐震スリット新設 W30 L3340



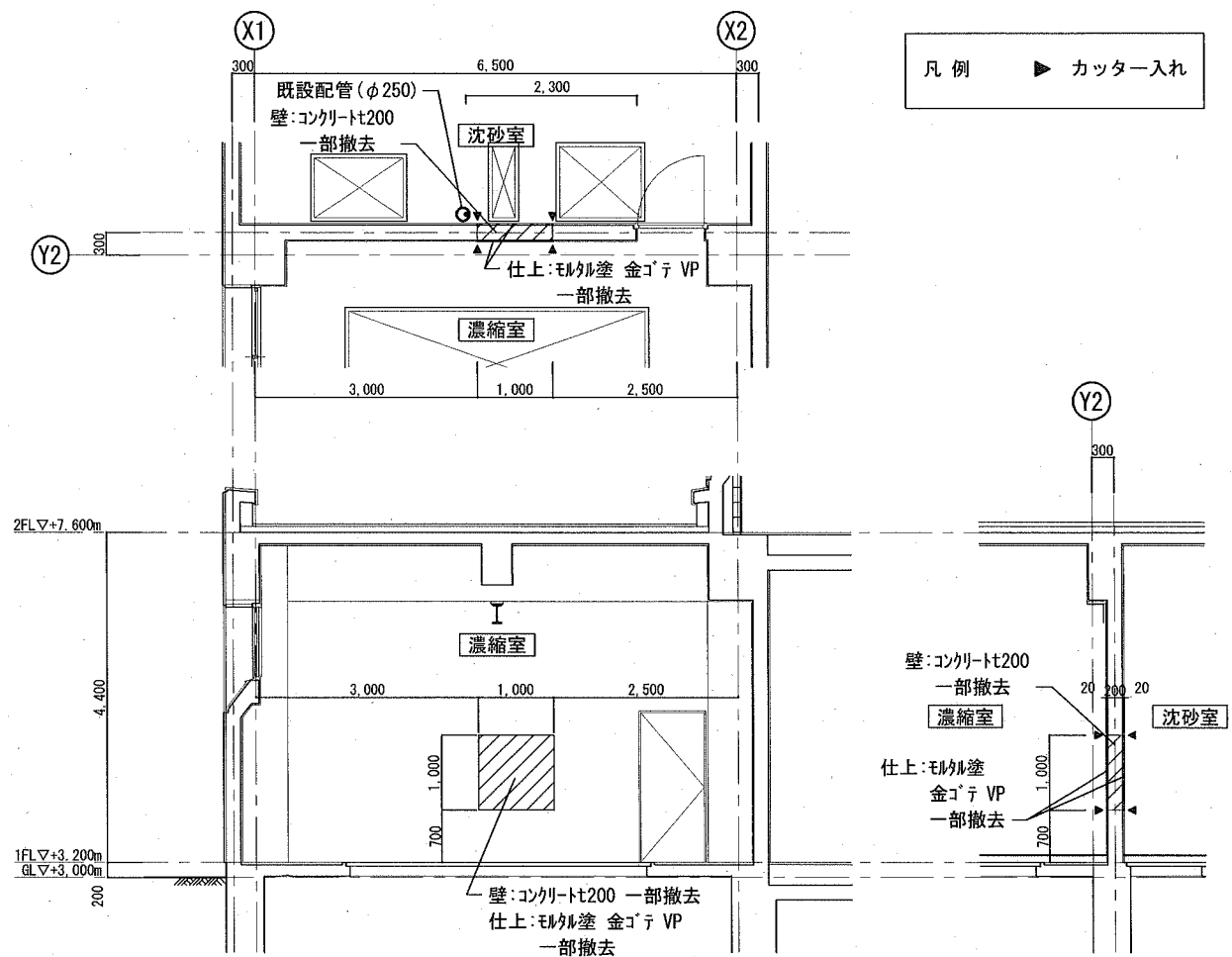
横須賀市上下水道局			
工名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか 耐震補強建築工事		
図名	改修詳細図2(汚泥処理棟)		
縮尺	1:50	回番	A-05
製年	令和 2 年 8 月		
課長	保長	担当者	設計者

改修前

改修後

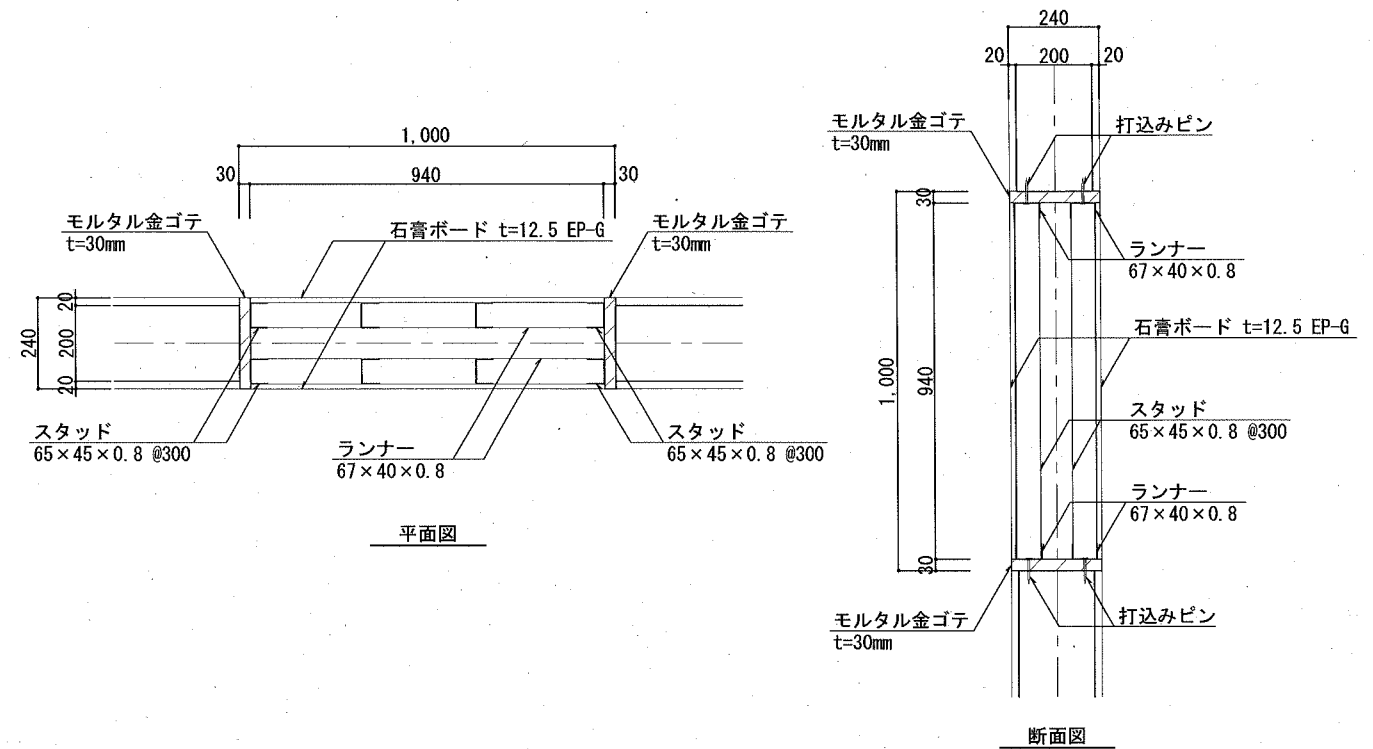
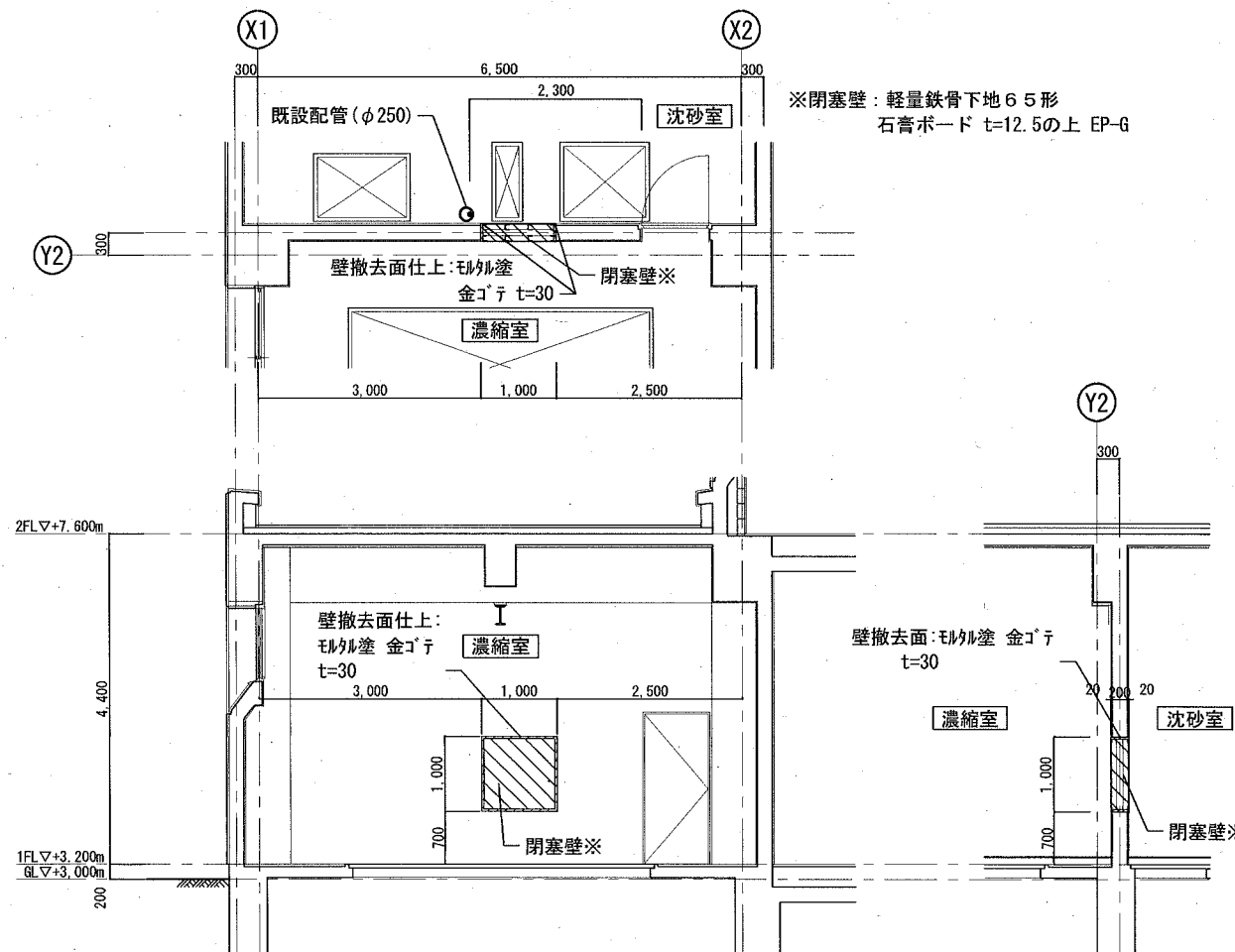
汚-3 1階 Y2通 X1~X2間 壁：開口追加 (既存コンクリート壁一部撤去)

改修前



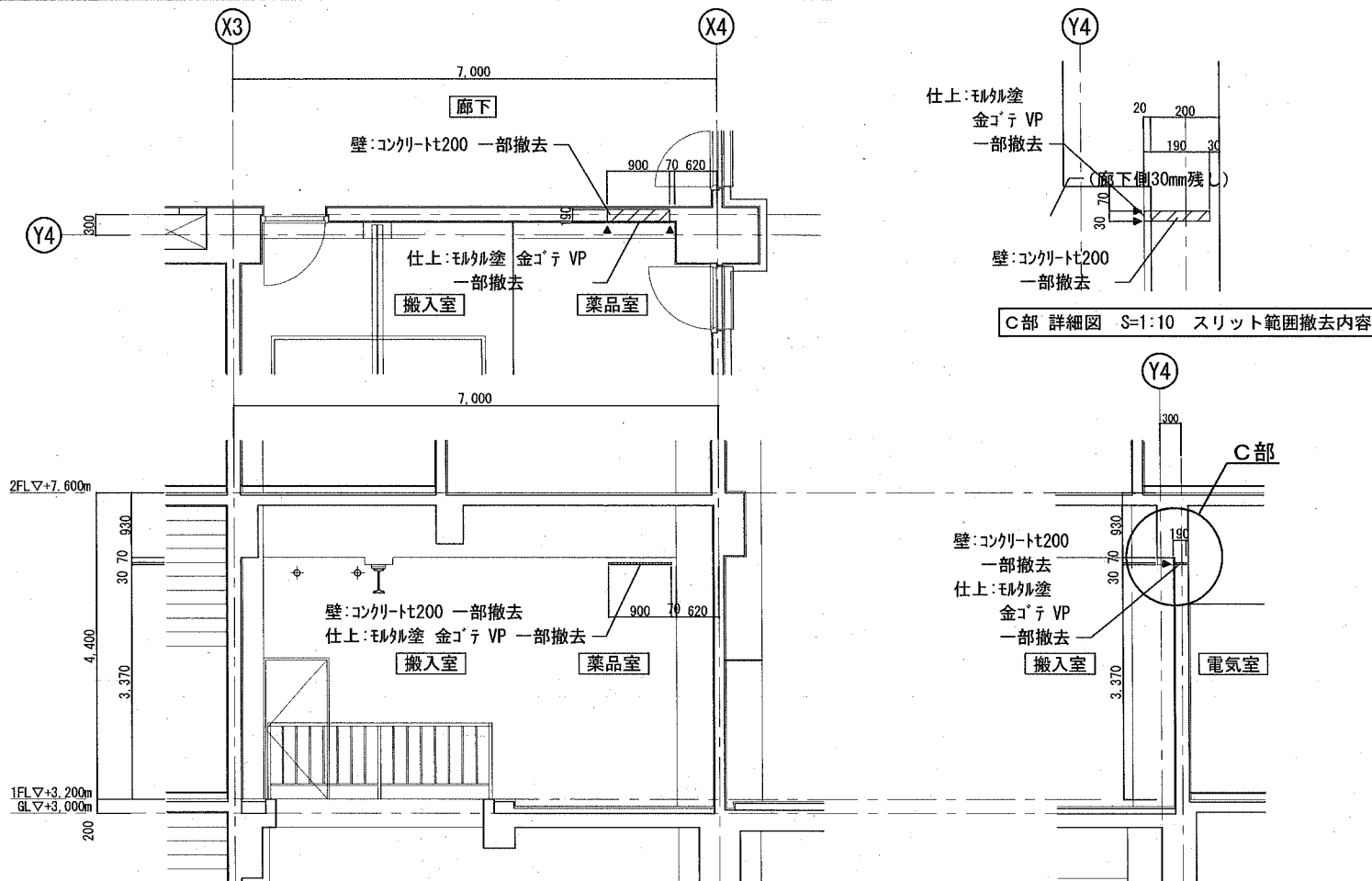
汚-3 1階 Y2通 X1~X2間 壁：仮壁閉塞

改修後

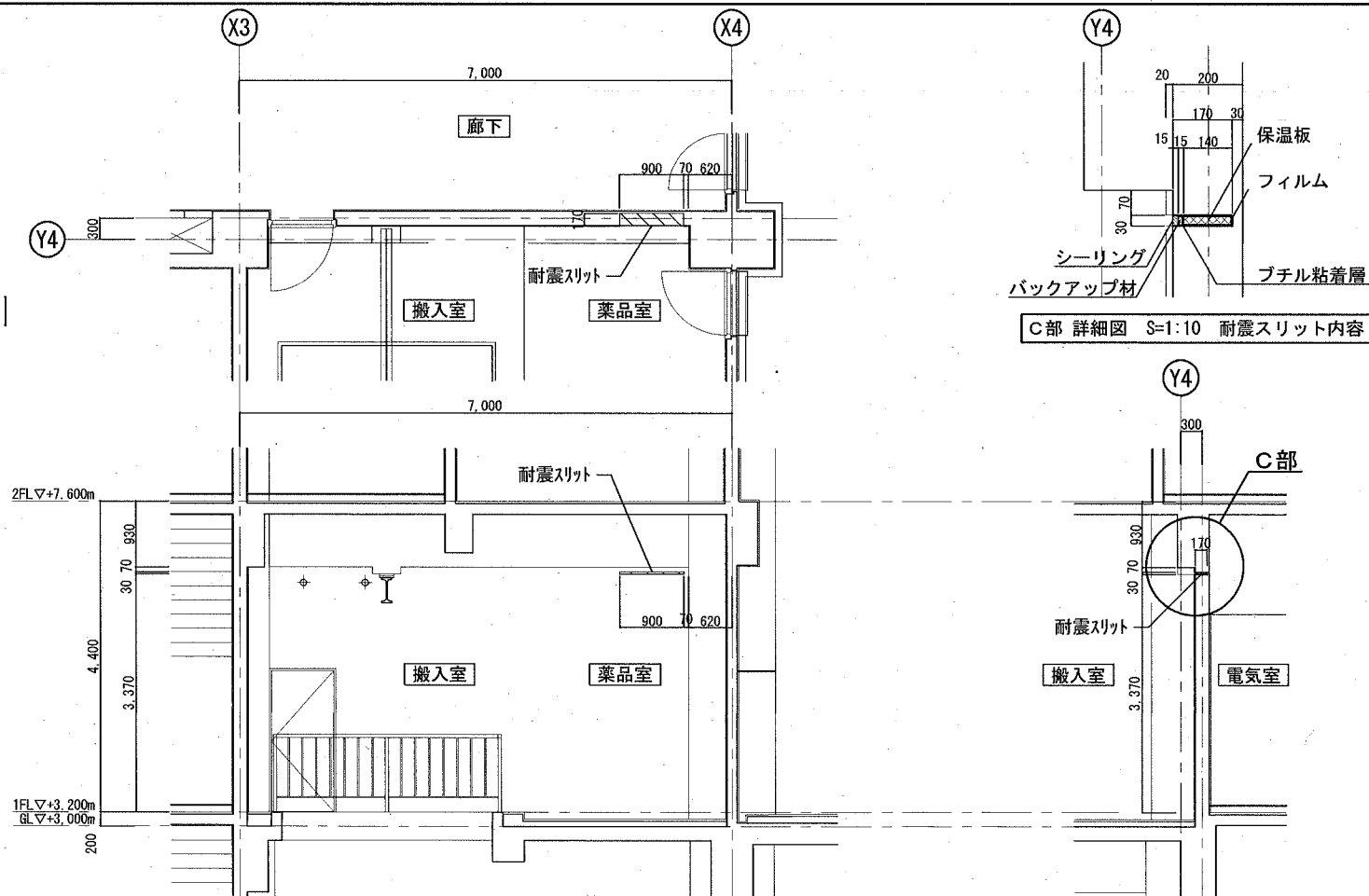


横須賀市上下水道局				
工 事 名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか 耐震補強建築工事			
図 名	改修詳細図3 (汚泥処理棟)			
縮 尺	1:50	図 番	A-06	
製 年	令和 2 年 8 月			
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者	

汚-4 1階 Y4通 X3~X4間 梁: 耐震スリット範囲撤去 W30



汚-4 1階 Y4通 X3~X4間 梁: 耐震スリット新設 W30 L900



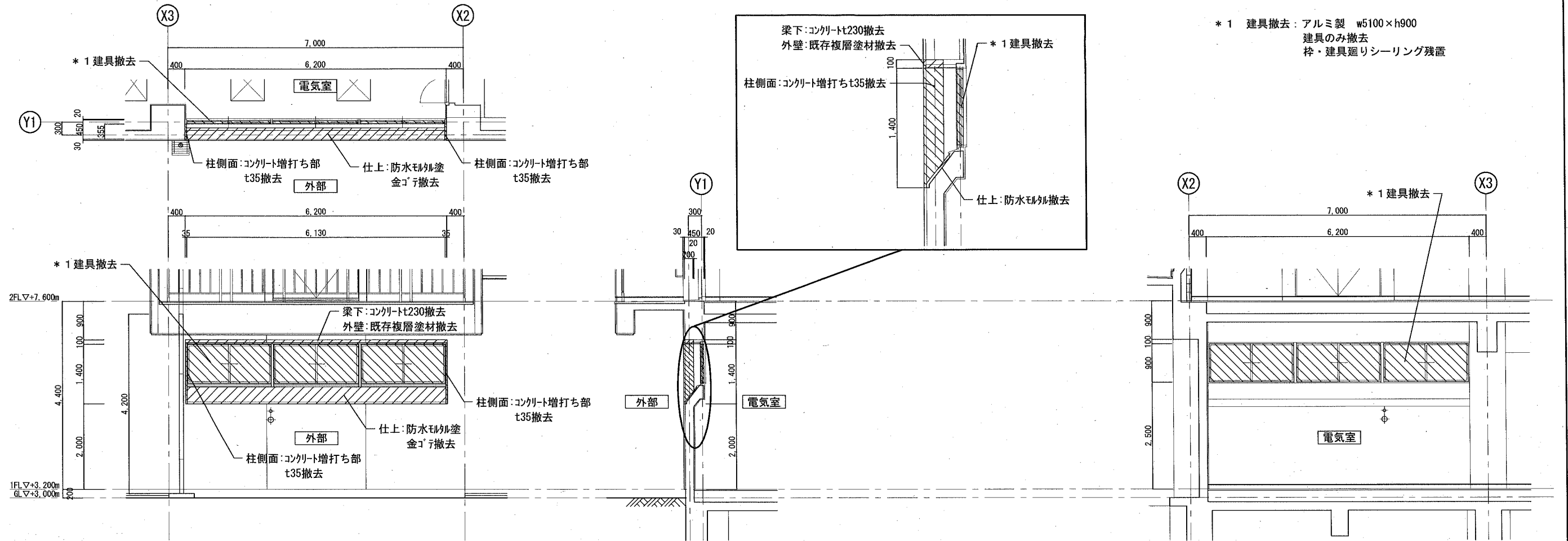
横須賀市上下水道局			
工名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか 耐震補強建築工事		
図名	改修詳細図4(汚泥処理棟)		
縮尺	1:50	図番	A-07
製年	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者

改修前

改修後

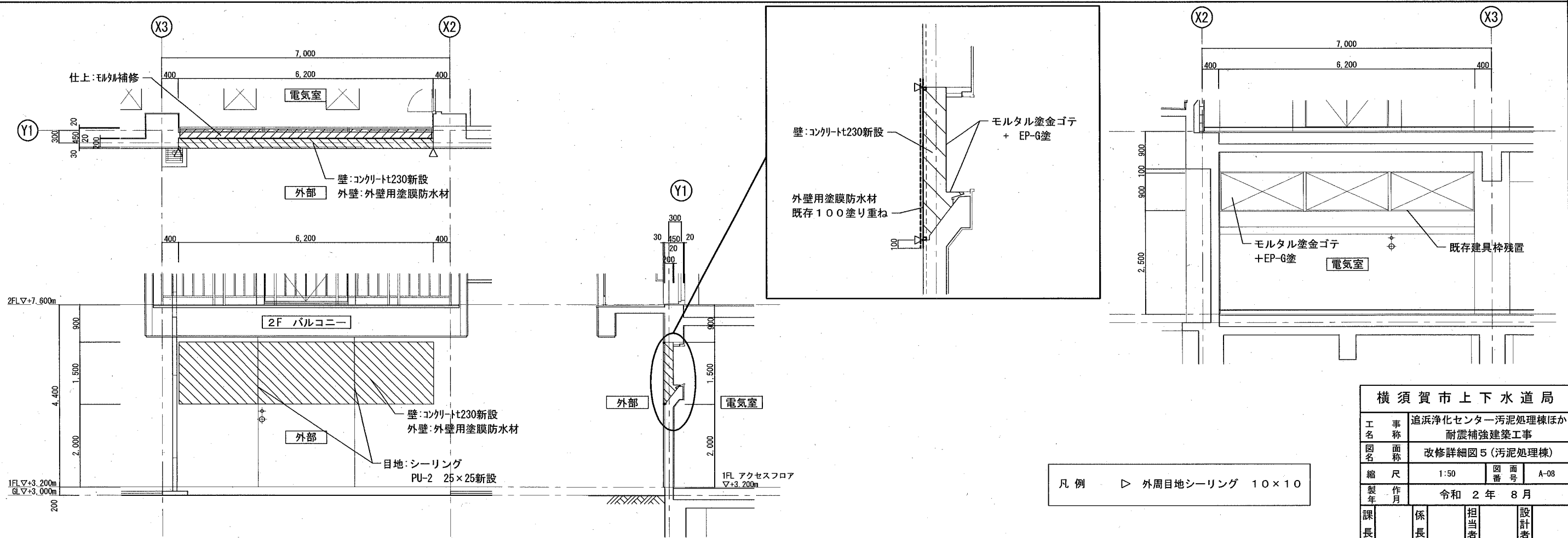
汚-5 1階 Y1通 X2~X3間 壁：開口閉塞

改修前



汚-5 1階 Y1通 X2~X3間 壁：開口閉塞

改修後

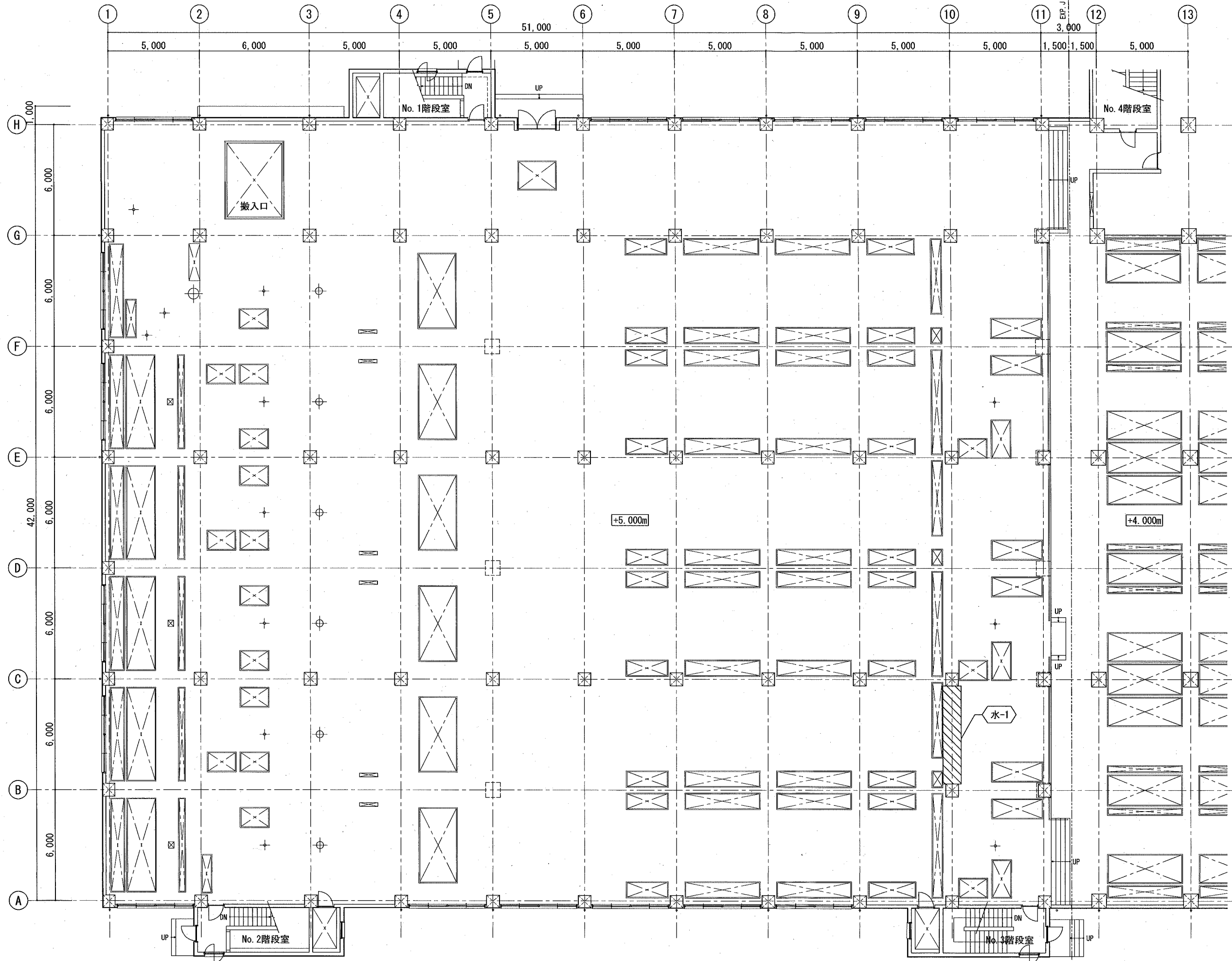


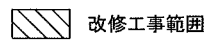
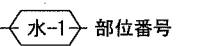

横須賀市上下水道局			
工事名称	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築工事		
図名	改修詳細図5 (汚泥処理棟)		
縮尺	1:50	図面番号	A-08
製年	令和 2年 8月		
課長	係長	担当者	設計者



水処理棟 1階 平面図(最初沈殿池)

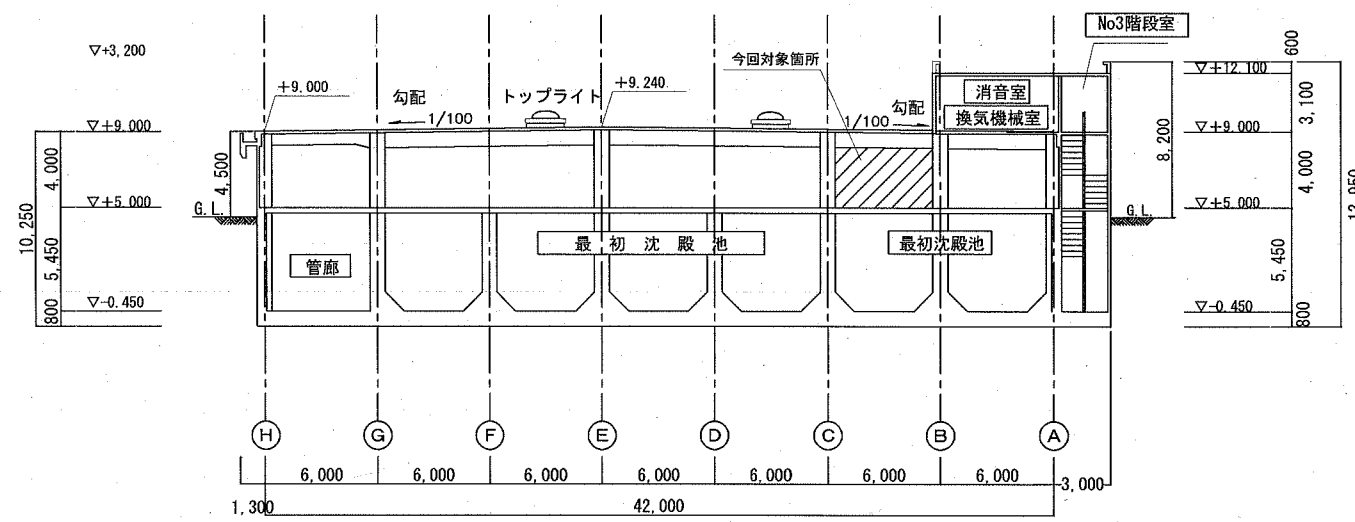
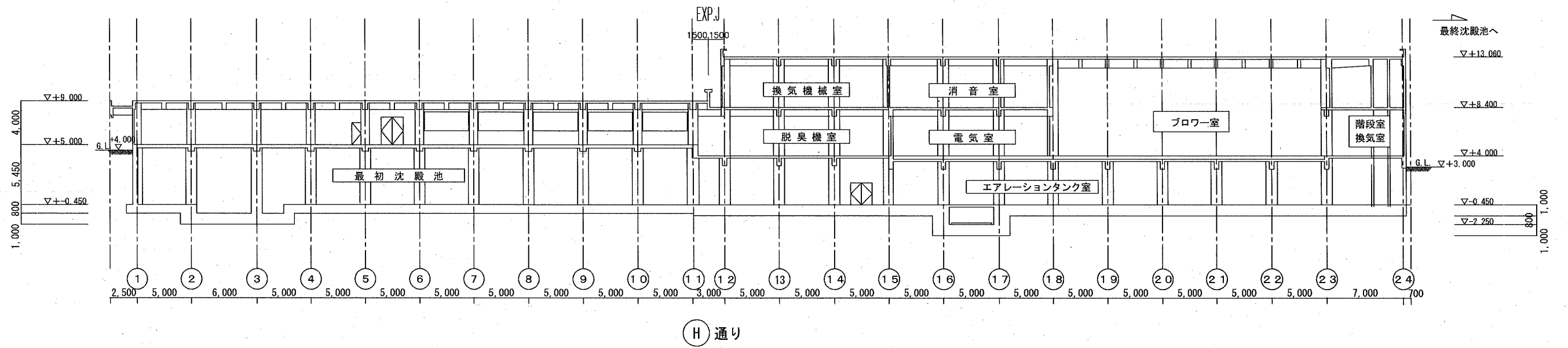
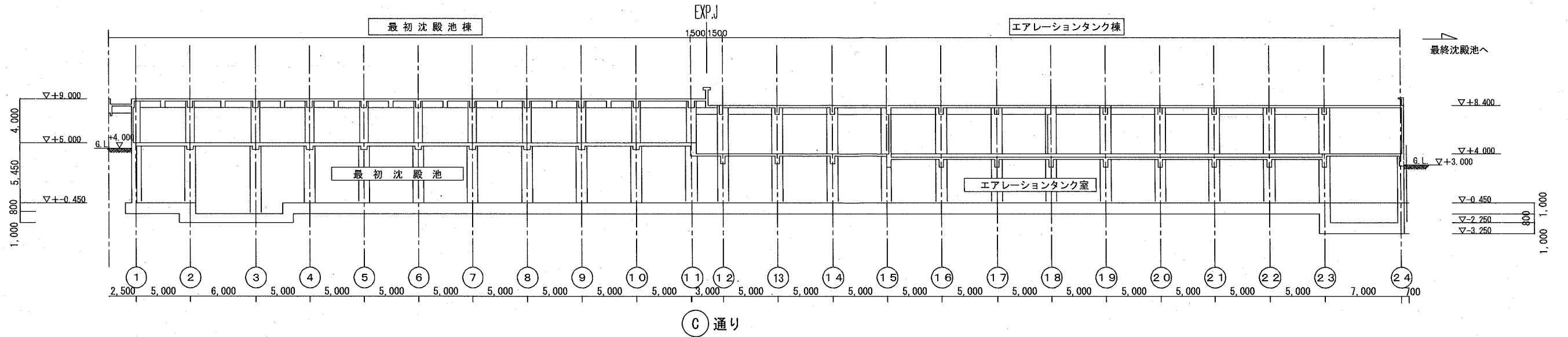
← 最初沈殿池 反応タンク →



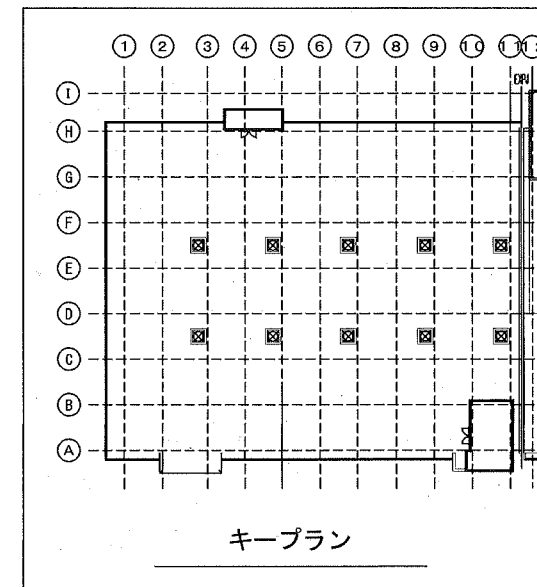
- 凡例
-  改修工事範囲
  - 施設  水-1 部位番号
  -  水路蓋

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築工事		
図 面 名 称	平面図(水処理棟)		
縮 尺	1:100	図 面 番 号	A-09
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者

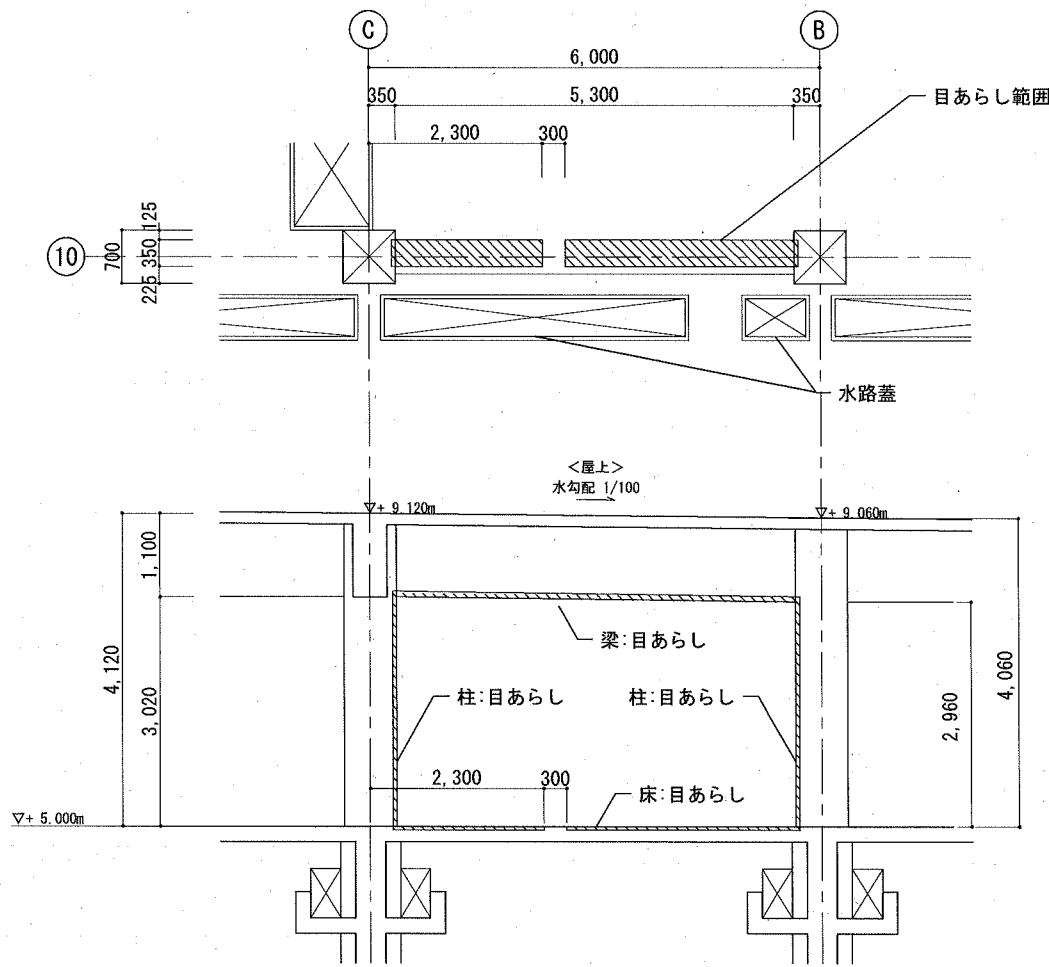
水処理棟 断面図 (縦断方向)



水処理棟断面図 (横断方向) ⑩ 通り

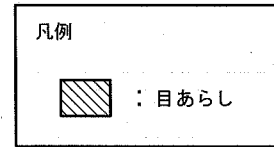


横須賀市上下水道局				
工名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築工事			
図名	断面図(水処理棟)			
縮尺	1:200	図番	A-10	
製年	令和 2 年 8 月			
課長	係長	担当者	設計者	

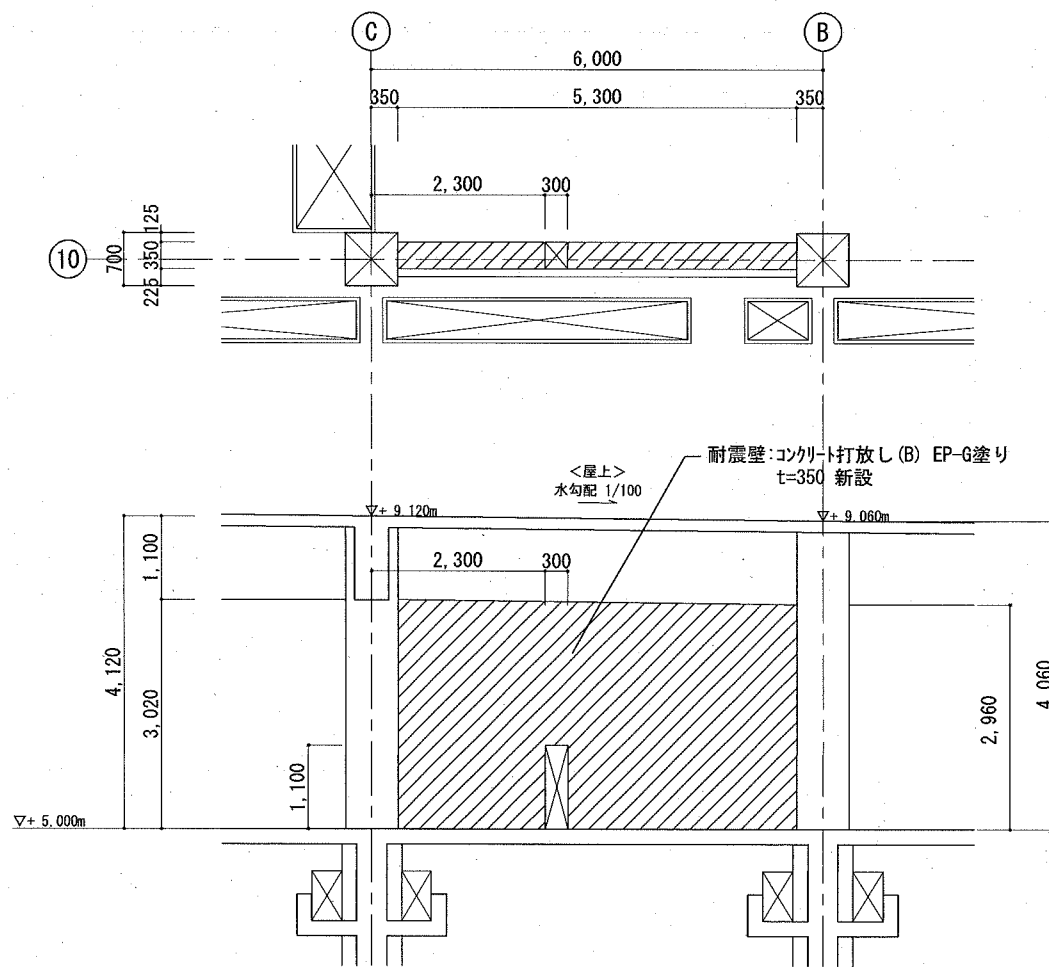


仕上表

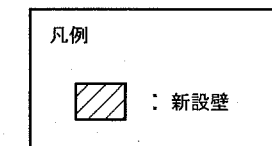
床	コンクリート打金ゴテ(A)
巾木	
腰壁	
壁・柱	コンクリート打放し(C) VP吹付
天井・梁	コンクリート打放し(C) VP吹付



改修前



コンクリート打放し(B) EP-G塗り



改修後

横須賀市上下水道局			
工名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか耐震補強建築工事		
図名	改修詳細図(水処理棟)		
縮尺	1:50	図番	A-11
製年	令和2年8月		
課長	係長	担当者	設計者

構造細目共通図(建築構造物)

< 令和2年版 >

(抜粋)

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 建築工事特記仕様書		
2) 建築工事一般仕様書		
3) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部	(平成31年版)
4) 公共建築工事改修仕様書(建築工事編)	国土交通省大臣官房官庁営繕部	(平成31年版)

- (3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、1.1表による。

1.1表 鉄筋の種類及び継手

鉄筋の種類	種別	径
	SD295A	※D16以下
SD345	※D19以上	
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下 の柱、梁主筋
	機械式継手	・図面による。

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは、1.2表による。

1.2表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スラブ厚(cm)	セメントの種類	
				地上	地下
鉄筋コンクリート	※普通	※24	※18	※普通ポルトランドセメント	※高炉セメントB
	※普通	※24	※15	※普通ポルトランドセメント	※高炉セメントB
無筋コンクリート	※普通	※18	※15	※普通ポルトランドセメント	※高炉セメントB

注1: 無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

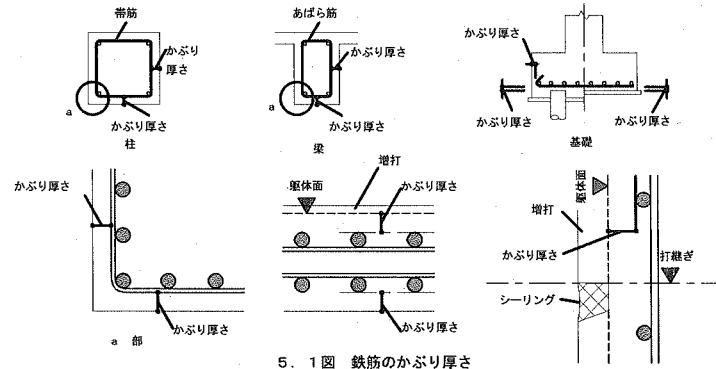
2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(5.1図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



5.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
- (3) 溶接金網にも適用する。

5.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

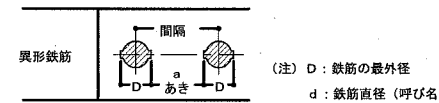
構造部分の種類	埋設区分		
	※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を必要とする場合	
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高温を受ける部分		60	70

1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。  
2: 杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。  
3: 仕上げなしの場合を標準とする。

5.3 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合はあきは特記による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



5.2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋径D	鉄筋相互のあき: a			最小鉄筋芯間隔 a+D
		(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	31mm 粗骨材最大径25mmの場合	25mm	15mm	42mm
D13	14			20mm	45mm
D16	18			24mm	49mm
D19	21			29mm	52mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

6 鉄筋の継手及び定着

6.1.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6.2表による。

6.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fo (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし				フックあり					
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>		L <sub>1h</sub>	L <sub>2h</sub>	L <sub>3h</sub>			
SD295A	24, 27	35d	30d	小梁	スラブ	10d	かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d					25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d	小梁	スラブ	10d	—	30d	25d	10d	—
	30	35d	30d					25d	20d		

- (注) 1. L<sub>1</sub>, L<sub>1h</sub>: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
- 2. L<sub>2</sub>, L<sub>2h</sub>: 割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- 3. L<sub>3</sub>: 小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く) かつ、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
- 4. L<sub>3h</sub>: 小梁の下端部のフックあり定着の長さ
- 5. フックあり定着の場合は、6.2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6.1.4 定着の方法

定着の方法は6.2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さL<sub>3</sub>が、6.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6.3表に示す長さのみ込ませる。

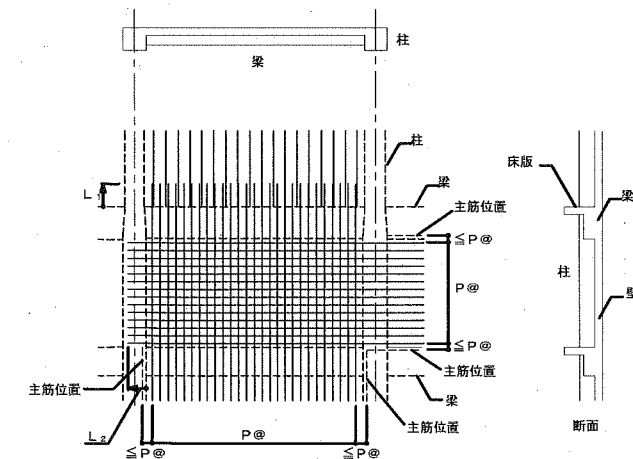
- (注) 1. L<sub>1</sub>, L<sub>1h</sub>は、6.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。

- ・ 梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
- ・ 小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・ スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上

1.4 壁の配筋要領

1.4.1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手の長さはL<sub>1</sub>、及び定着の長さは、L<sub>2</sub>とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをL<sub>1</sub>、定着長さはL<sub>2</sub>とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは40dとし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、1.4.1図による。



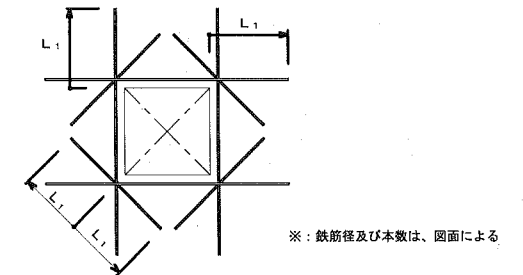
1.4.1図 壁の配筋

1.4.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外には設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

1.4.3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、1.4.3図を標準とする。



1.4.3図 壁開口部の補強の定着長さ

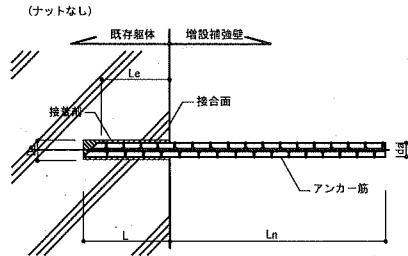
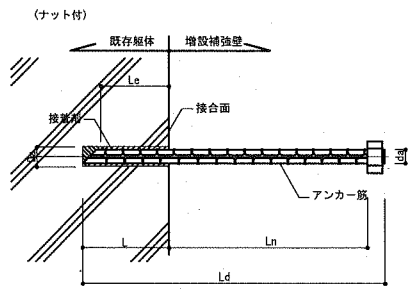
- (2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

横須賀市上下水道局

工名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか
事名	耐震補強建築工事
図名	構造細目共通図(1)
縮尺	—
製年	令和2年8月
課長	係長
	担当者
	設計者

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



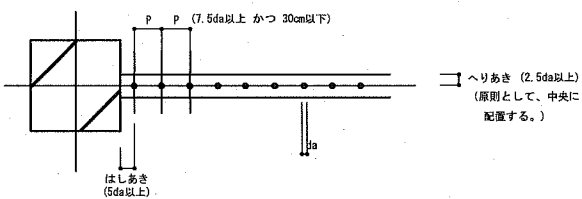
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
 Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
 Ld : アンカー筋の全長  
 Ln : 有効定着長さ  
 Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
 da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項	
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部 : $Le=7da$ 開口補強筋 : $Le=10da$
接着系アンカーの有効定着長さ	一般部 : $Ln=20da$ 開口補強筋 : $Ln=L+5da$ (=補強筋との継手長さ+グリブ)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上であること。 また、先端形状は45°カットとする。

施工確認試験荷重 (終局引張強度)		終局せん断強度
アンカー筋呼び名 (da)	荷重 (kN)	荷重 (kN)
D16 (7da)	47.5	41.0
D10 (10da)	20.9	14.7
D13 (10da)	37.5	26.2
○ D16 (10da)	58.7	41.0
○ D19 (10da)	99.0	69.2
○ D22 (10da)	133.5	93.5

・上記荷重は終局引張強度のため、引張試験はその強度の2/3以上とする。  
 条件変更等がある場合は、耐震改修設計指針 (日本建築防災協会) により算出のこと。  
 上記に示す箇所以外とするときは、別途確認強度を算出すること。  
 ・国土交通省「あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針」(平成18年7月) による。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



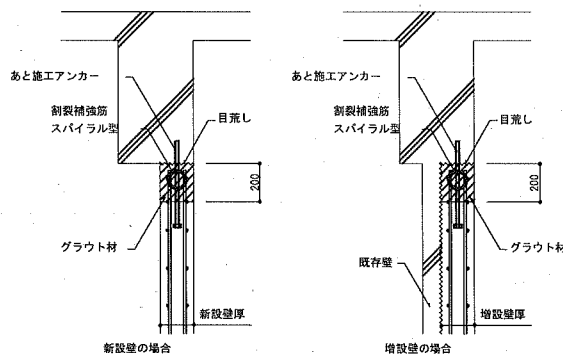
割裂補強筋配筋要領

1. 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
2. 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
3. 継手は、2巻以上の重ねとする。

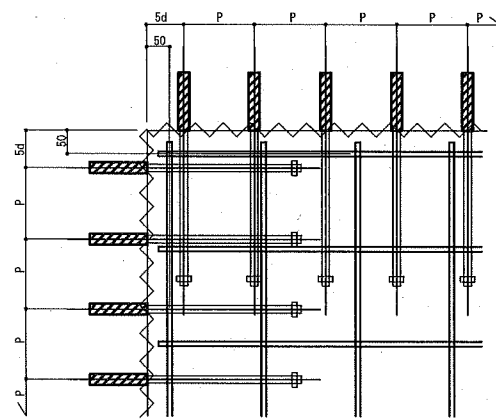
壁厚	スパイラル径	割裂補強筋	備考
180	100φ	6φ#50	
200	120φ	6φ#50	
220	140φ	6φ#50	
250	170φ	6φ#50	
270	190φ	6φ#50	
300	220φ	6φ#50	
350	270φ	6φ#50	

新設・増設壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

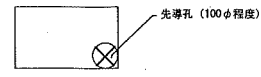


アンカー筋ピッチ標準

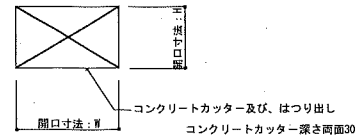


新設壁開口配筋要領図

1. 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。

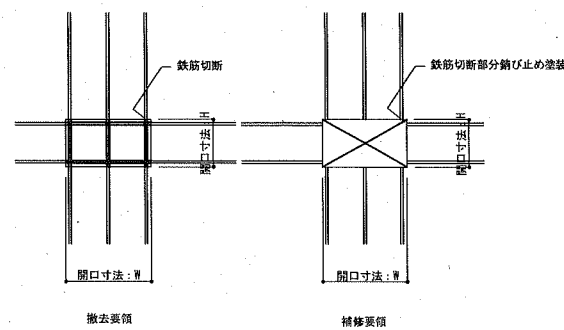


2. 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。

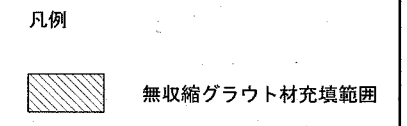
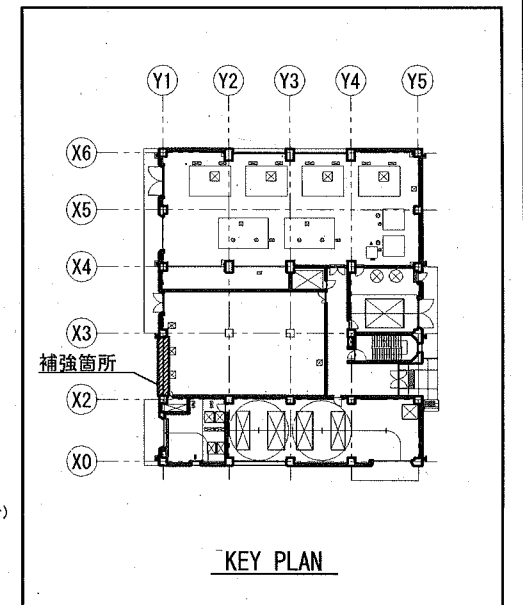
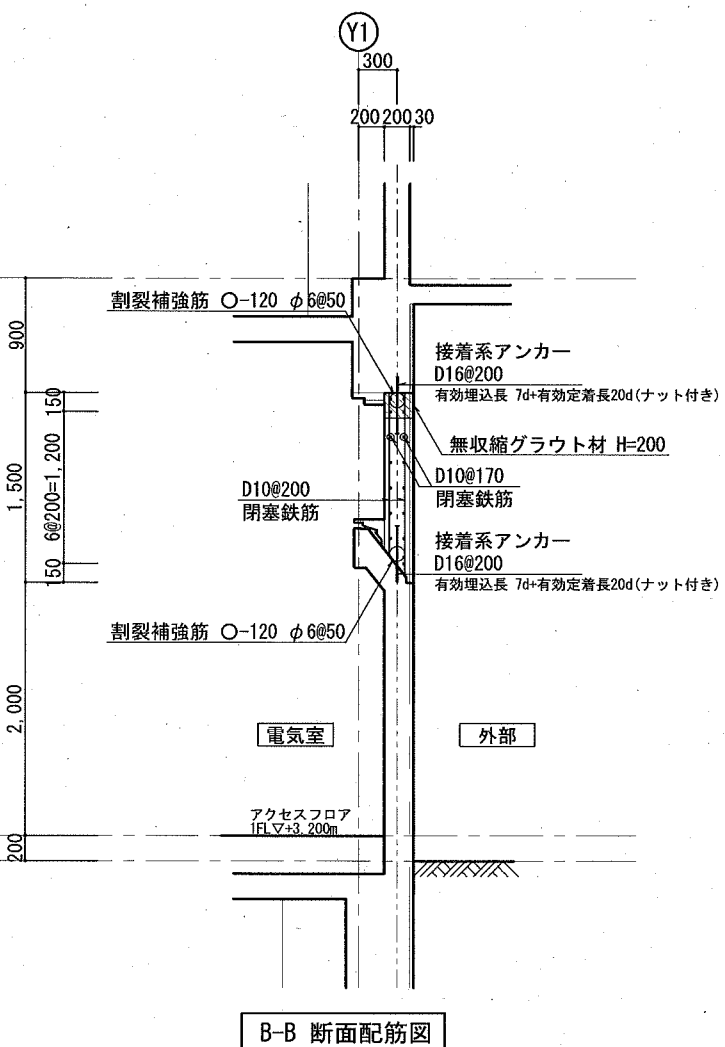
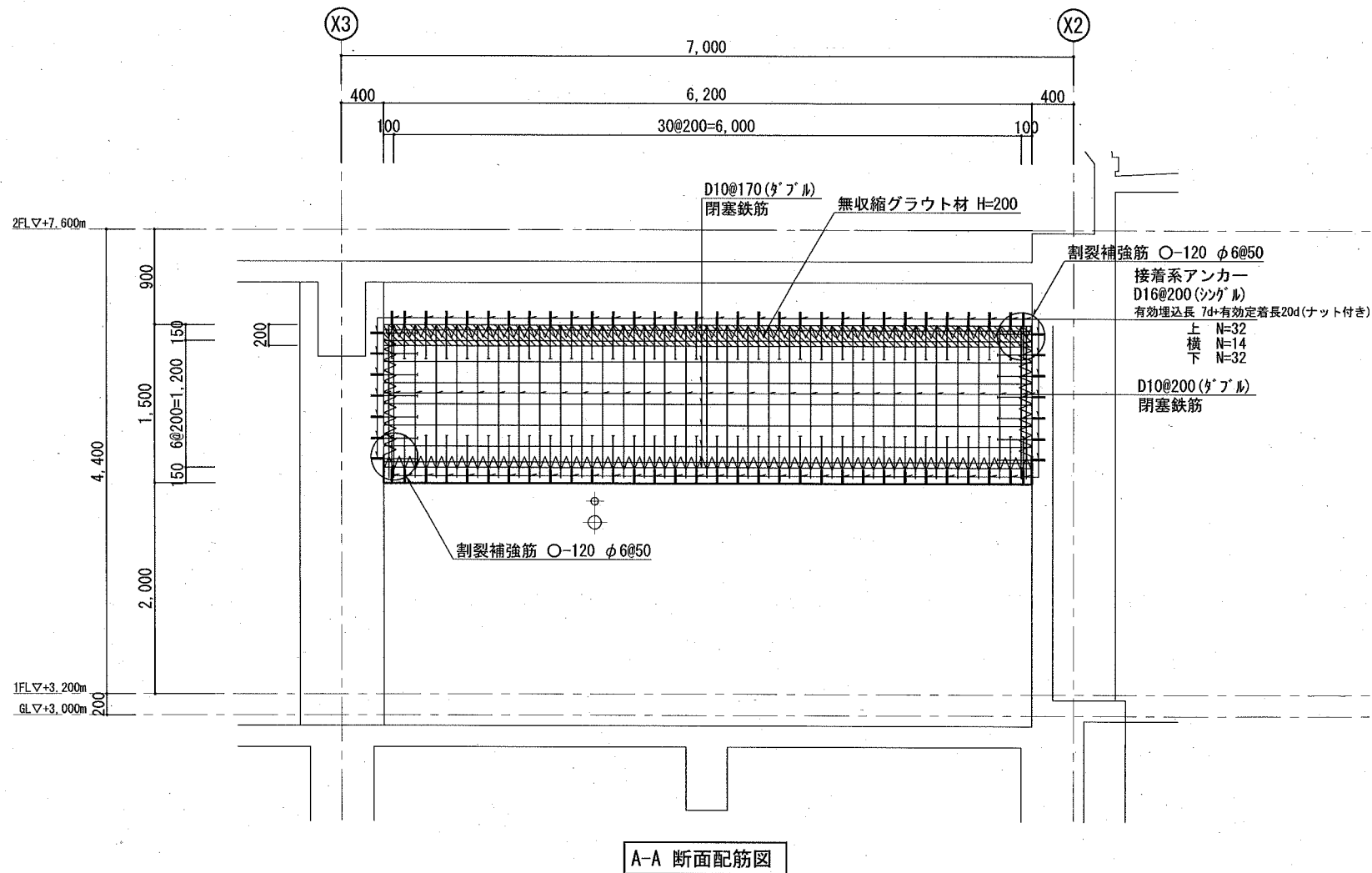
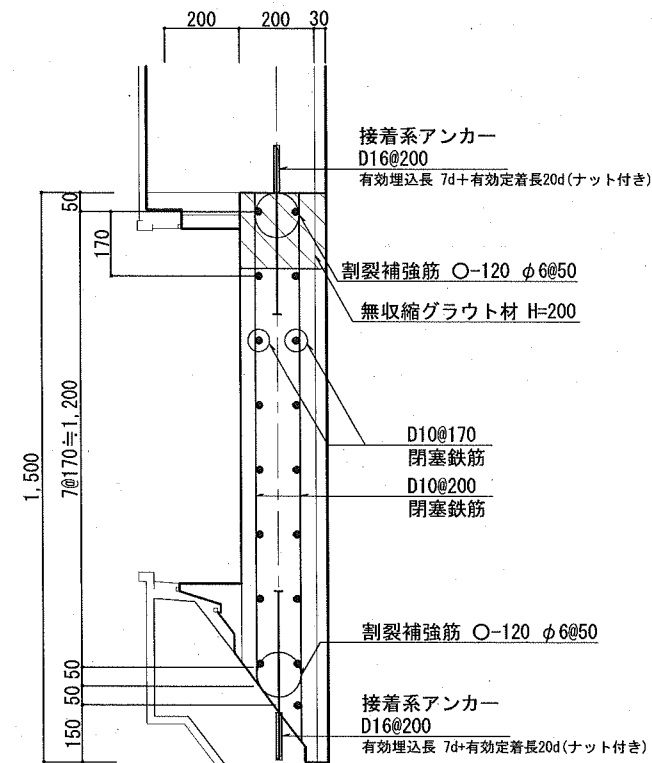
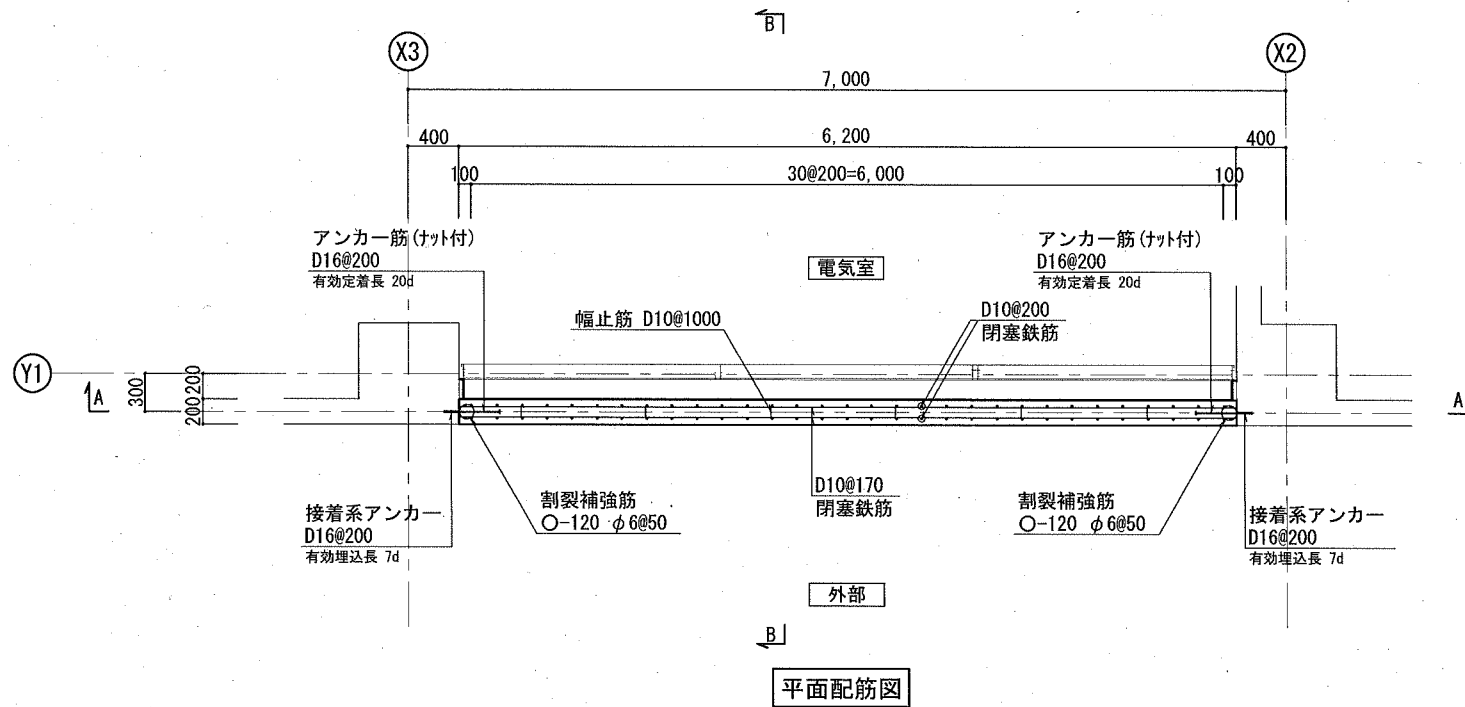


3. 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。  
 大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。  
 開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

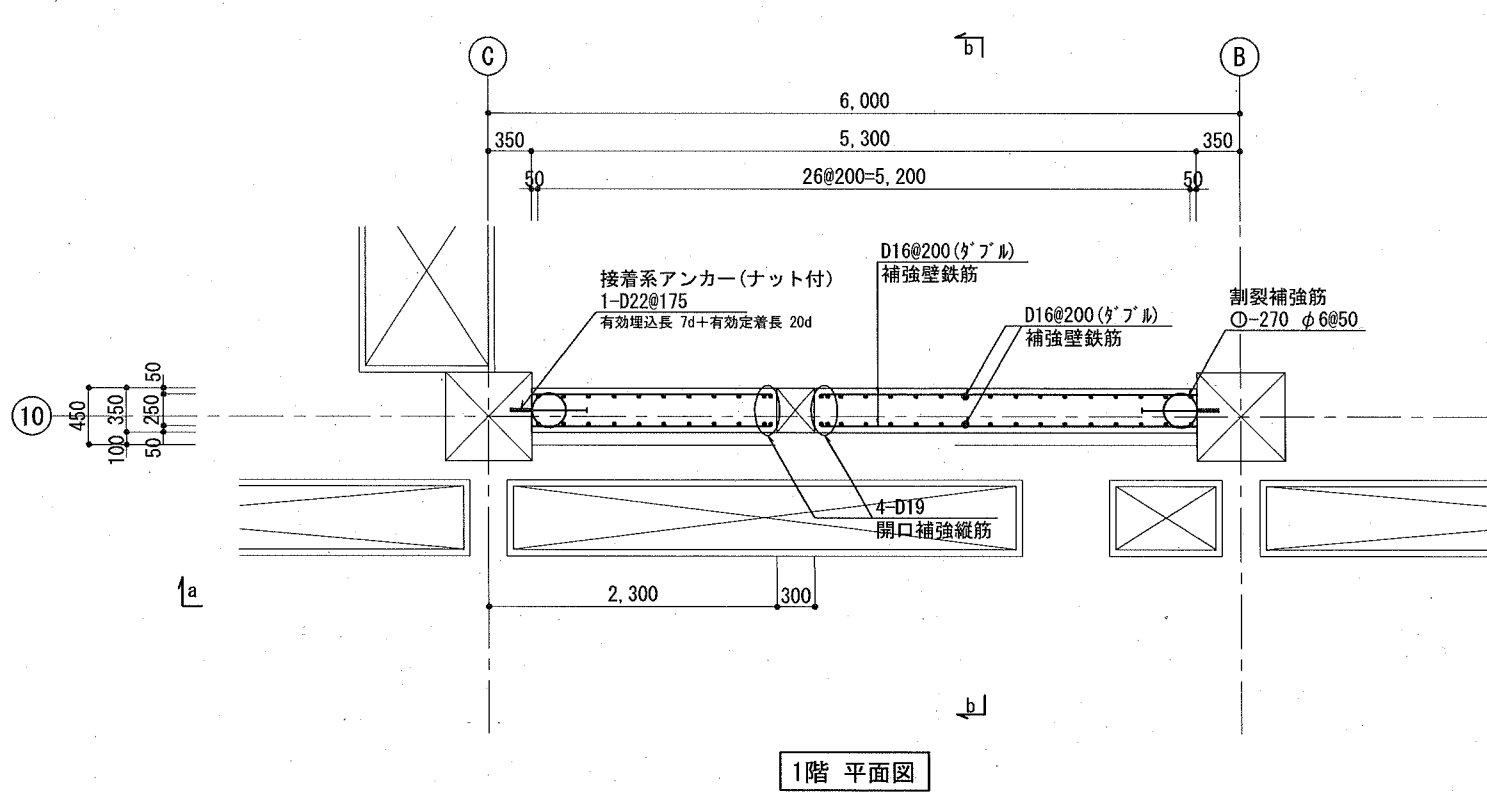
○小開口部 適用は特記による。



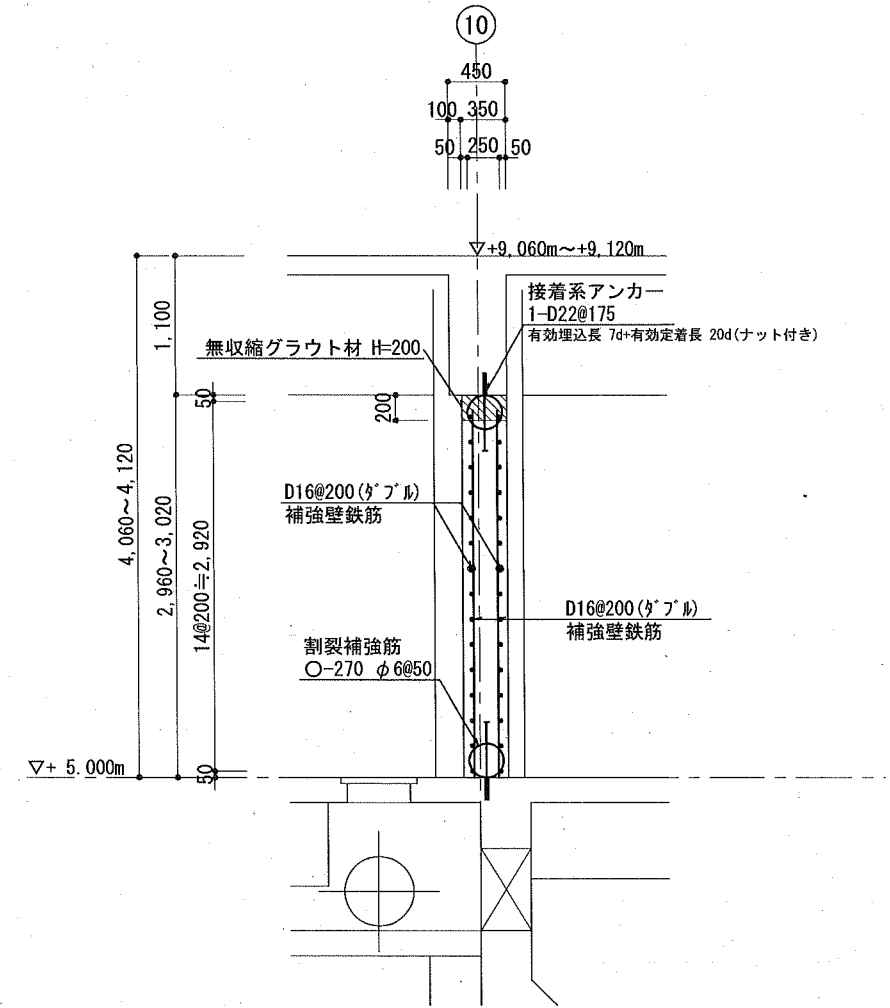
横須賀市上下水道局			
工事名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか		
図名	耐震補強建築工事		
縮尺	—	図番号	S-02
製年	令和 2 年 8 月		
課長	係長	担当者	設計者



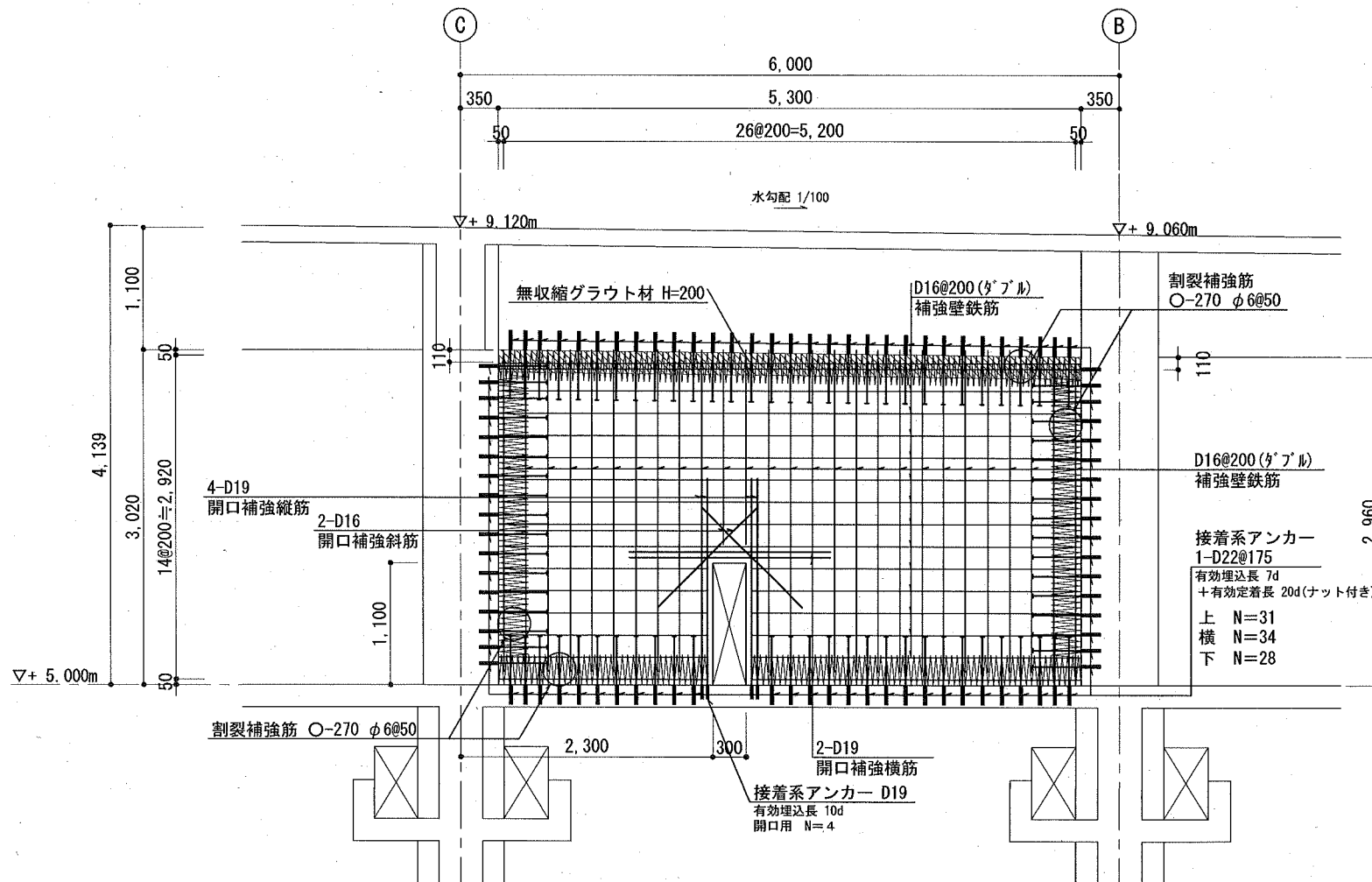
横須賀市上下水道局			
工 事 名	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか 耐震補強建築工事		
図 面 名	構造詳細図 1 (汚泥処理棟)		
縮 尺	1:30	図 番 号	S-03
製 作 年 月	令和 2 年 8 月		
課 長	係 長	担 当 者	設 計 者



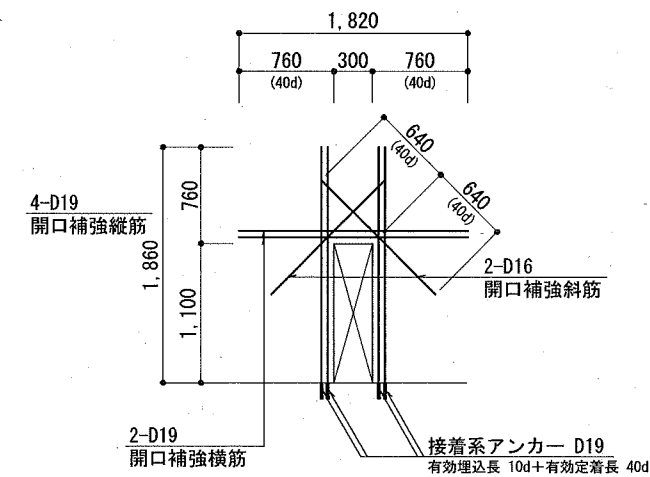
1階 平面図



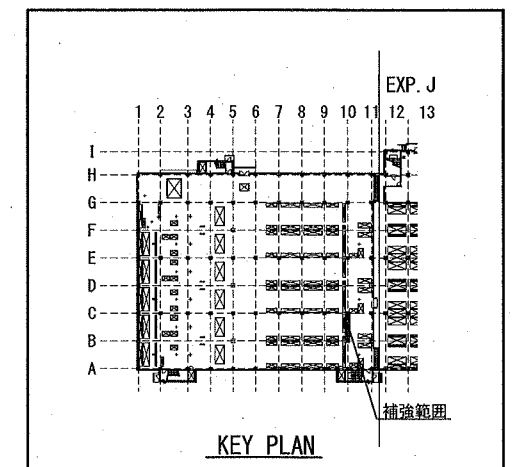
b-b 断面図



a-a 断面図



開口補強筋詳細図



横須賀市上下水道局			
工名	事	追浜浄化センター汚泥処理棟ほか	
事	称	耐震補強建築工事	
図名	面	構造詳細図2 (水処理棟)	
縮尺	1:30	図番	S-04
製年	作月	令和 2 年 8 月	
課長	係長	担当者	設計者